

# 福島県相馬市医療救護活動体験記

中 川 康 司

奈良文化女子短期大学

## Report on a Medical Relief Activity at Souma City in Fukushima Prefecture

Yasushi Nakagawa

*Narabunka Women's College*

著者は福島県相馬市の医療救護班のひとつである心のケアチームに平成23年5月10日から同年5月13日まで精神科医として参加した。著者が避難所や臨時精神科外来で診療した方は要約すると（1）大震災や避難所での集団生活によるストレスが原因で精神症状や精神疾患を発症した方々、（2）大震災や避難所での集団生活によるストレスが原因で未治療の精神疾患が顕在化した方々、（3）精神疾患の既往があり、大震災や原発事故によりかかりつけの精神科医療機関での治療継続が不可能となった方々であった。今後も相馬市への継続的な支援活動が必要であると考えられる。

キーワード：医療救護活動、相馬市

## 1. はじめに

平成23年3月11日午後2時46分三陸沖を震源として発生したマグニチュード9.0の巨大地震に端を発する東日本大震災の発生により日本並びに世界を取り巻く環境は一変した。福島県は東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故（東電福島原発事故）の甚大な被害を蒙った。著者は福島県相馬市の医療救護班のひとつである心のケアチームに平成23年5月10日から同年5月13日まで精神科医として参加する機会を得たので概略を報告する。

## 2. 福島県相馬市について

相馬市は福島県の東北端に位置し、東西28km、南北13kmの大きさである<sup>1)</sup>。西には阿武隈山地が広がり、東は太平洋に面している<sup>1)</sup>。平坦地と山間部の割合がほぼ半々で、市街地は中央の平坦地にある<sup>1)</sup>。

中川 康司 〒631-8523 奈良市中登美ヶ丘3-15-1 奈良文化女子短期大学

相馬市からみて福島市は西に57km、東京都は南に300km、仙台市は北に53 kmの位置にある<sup>1)</sup>。

### 3. 相馬市の被害状況

相馬市災害対策本部の報告によれば、相馬市の東日本大震災における被害は平成23年5月8日の時点で死亡者415人（中地区164人、大野地区9人、飯豊地区8人、玉野地区1人、日立木地区3人、磯部地区230人）であった。また、平成23年2月の相馬市の人口は38054人であったが、平成23年4月の人口は37284人に減少した。

### 4. 相馬市を取り巻く精神医療状況

相馬市には精神科を標榜する診療所や精神科病院がない。そのため相馬市内在住の精神疾患に罹患されている方の多くは相馬市の南に位置する南相馬市内にある精神科関連のクリニックや病院で治療を受けていた。しかし、大震災と東電福島原発事故の影響で南相馬市内の精神科関連のクリニックや病院が診療を継続できなくなった。この問題を解決するために、震災後、相馬市内にある公立相馬総合病院の中に臨時精神科外来が設けられ、福島県立医科大学の支援により心のケアチームという体制で全国から精神科医の派遣を受け入れるシステムが確立された。著者の派遣もこのシステムに沿うものであった。

### 5. 活動の概要

著者が福島県相馬市の医療救護班のひとつである心のケアチームに精神科医として参加したのは平成23年5月10日から同年5月13日であった。東日本大震災が発生してから約2ヶ月が経過していた。

著者が心のケアチームに参加した時期の1日の主な活動スケジュールの概要は次の通りである。午前8時30分に朝の相馬市医師会医療救護班連絡会議が相馬市保健センターで開かれ心のケアチームのメンバーは出席した。その会議の中で保健センター所長並びに関係者から市災害対策本部会議の検討事項や連絡事項の報告、市内の被災状況や復興状況の報告、各医療チームからの活動予定や活動状況の報告、その日新たに医療救護班に加わった医療関係者並びに医療救護班を離れる医療関係者の挨拶などが行われた。この会議によって医療関係者間のコミュニケーションと情報の共有が図られた。相馬市医師会医療救護班連絡会議終了後、午前9時から同センターにて心のケアチームの午前のミーティングが開かれた。このミーティングの中でその日の役割分担の決定や確認、打ち合わせなどが行われた。心のケアチームのミーティング終了後に各避難所及び各家庭を訪問する巡回診療が行われた。昼食後、午後1時から午後3時まで公立相馬総合病院に開設された臨時精神科外来にて診療が行われた。午後3時30分から公立相馬総合病院内の会議室で午後の心のケアチームのミーティングが開かれた。このミーティングの中

で巡回診療や外来診療に関する情報の共有、申し送り事項の確認が行われ、検討事項が討議された。午後5時から相馬市保健センターにて夕方の部の相馬市医師会医療救護班連絡会議が開かれた。心のケアチームのメンバーはこの会議に出席して朝の部と同様に報告や挨拶が行われた。

プライバシーに配慮する必要があるため面談や診察の詳細は記載できないが、著者は8つある避難所のうち3日間で3箇所の避難所の巡回診療を担当し、心のケアチームが過去に関わった避難者の再面談を実施した。巡回診療は栃木県精神保健福祉センター、福島少年鑑別所、聖路加国際大学看護学部から支援にかけていた医療関係者と一緒に行った。また、著者は公立相馬総合病院臨時精神科外来にて2日間外来診療を担当し、主としてかかりつけの病院やクリニックの閉院のために内服薬のなくなった、あるいはなくなりかけている方の診療を行った。外来診療は神奈川県から支援にかけていた精神科医（小綿一平医師）とふたりで行い、合計約30名の方を診察した。

著者が避難所や臨時精神科外来で診療した方は要約すると（1）大震災や避難所での集団生活によるストレスが原因で精神症状や精神疾患を発症した方々、（2）大震災や避難所での集団生活によるストレスが原因で未治療の精神疾患が顕在化した方々、（3）精神疾患の既往があり、大震災や原発事故によりかかりつけの精神科医療機関での治療継続が不可能となった方々であった。

会議やミーティングでは（1）公立相馬総合病院臨時精神科外来から南相馬市内で診療を再開した精神科関連クリニックへの橋渡し、（2）避難所から仮設住宅へ巡回診療の拡大実施、（3）病院の閉院が相次ぐ状況での入院施設の確保、（4）飲酒や喫煙の増加などが今後の課題として指摘された。

## 6. おわりに

災害支援活動に参加する際には現場のニーズに合った活動をし、自分の身は自分で守ることが重要である。著者の活動期間は3泊4日の日程であったが、そのことを実感する上でも今回の活動は著者にとって貴重な体験となった。今回の災害の規模を考えると復興への道のりはまだまだ険しいといわざるを得ないだろう<sup>2)</sup>。今後も相馬市への継続的な支援活動が必要であると考えられる。

このたびの東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。併せて被災されました皆様にも心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 謝辞

今回の派遣と現地での活動に際しまして支援して下さった関係者の方々に深謝致します。

## 引用文献

- 1) 相馬市 - Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9B%B8%E9%A6%AC%E5%B8%82>
- 2) 福島県相馬市ホームページ <http://www.city.soma.fukushima.jp/>